

わ

が

街

わ

が

故

郷

## 株式会社南海精工所とその周辺

### 1. 会社の紹介

商標 SMT

〒590-0906

大阪府堺市三宝町4丁231番地

T E L 072-229-6825

当社は堺市の北西部、大阪市と堺市の境に流れる大和川のすぐ南側に位置します。中世には商業都市として栄えた町の中心部に近く、近隣には今もたくさんの名所・旧跡が残されています。

戦後の日本の復興に伴いベアリングの需要が増大することを予期して、1946年にラジアルボールベアリング製造業として、南海精工所を設立したのが当社の事業の始まりです。

その後、1949年に株式会社に改組し、さらに二度にわたる隣接地の買収による工場の拡充を経て今日に至っています。創業当時は周りがほとんど畠で、のどかな風景がみられたということですが、臨海工業地帯の造成を皮切りに周辺地域も大きく変貌し、今では農地もほとんどなくなってしまいました。

### 2. 周辺地域の紹介

堺市は大阪府のほぼ中央に位置します。市域は大きく二分され、東側は丘陵地帯で泉北ニュータウンを中心とする住宅地域です。西側は海岸

沿いに古くから港や町並みが発達し、国内有数の臨海工業地帯もあります。ここでは当社の周辺部である北西部を中心にご紹介します。

執筆にあたり、堺市商工部商工支援課、堺市中央図書館、堺商工会議所等より資料をご提供いただき活用させていただきました。

#### 大和川のつけかえ

奈良盆地を流れている川はすべて大和川に集まっています。奈良県から大阪府を経て大阪湾に注ぐ川です。むかし、奈良県を大和（やまと）と言ったことから大和川と呼ばれるようになりました。もともとは現在の大阪市の東側をいく



300年ほど前の大和川の川すじと中甚兵衛翁碑

筋もの川となって北に流れ、淀川に合流していました。たび重なる淀川下流域の氾濫のため、新たな水路を開削して大和川の水を直接海に注ぐ計画が立てられました。工事の大変さや予定

地域の人々の反対もあり、なかなか実現しなかったようですが、1704年に幅約180m、長さ約14kmにわたる新大和川をわずか7ヶ月で完成させたとのことです。

大和川の付け替えにより、大量の土砂が海に流れ込み海岸部の地形を大きく変えることになりました。

#### 旧鉄砲鍛冶屋敷

現在でも堺の刃物は全国的に有名ですが、ほぼ同時期に鉄砲鍛冶も発達しています。1543年にポルトガル人によって、種子島に火縄銃が伝えられてから堺で鉄砲作りが盛んになりました。しかし、それ以前にも火縄銃よりも原始的な中国の鉄砲を手に入れ、堺で作られていたという記録もあります。当社から東へ500メートル位の北旅籠町というところには江戸時代の鉄砲鍛冶屋敷の姿を留める唯一の家屋が現存します。

幕末まで続いた鉄砲作りも徳川幕府とともに終焉を迎え、その技術が自転車製造に受け継がれていくことになります。

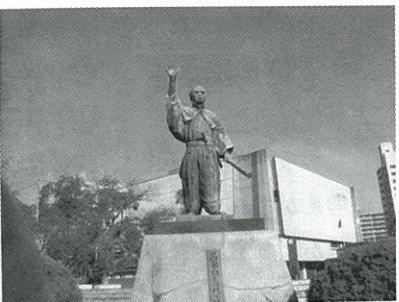


鉄砲町表示版と鉄砲鍛冶射的場跡石碑

#### 堺と貿易

フランシスコ・ザビエルなどの宣教師たちが日本に渡来したのをきっかけに、ポルトガルやスペインなどとの貿易が始まりました。堺の商人はしばしば平戸や長崎に行き南蛮伝来の新製品を堺に運んだことにより、堺は一大商業取引の中心となりました。また、南蛮貿易に刺激されて南方貿易も盛んになりました。後にルソン

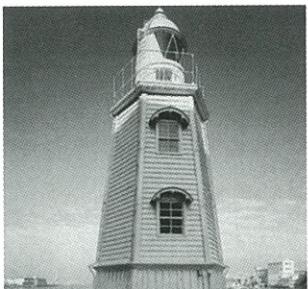
助佐衛門と呼ばれる堺の商人納屋助佐衛門は呂宋（ルソン・現在のフィリピン）に渡航した際、フィリピンの珍奇な品々を仕入れて帰国し、唐傘・香料・ローソクなどを豊臣秀吉に献上したという記録が残っています。納屋助佐衛門の家が現在の大安寺の本堂だといわれています。立派な住宅であったことをうかがわせる部分が現在でも残っています。



ルソン助佐衛門銅像

#### 旧堺港灯台

日本で最も古い木製洋式灯台で明治10年(1877)に完成したものです。木造六角錐白色で高さは11.3m、40km先まで光が届いたとのことです。もともと、遥明台と呼ばれていたものがありましたが、風雨のときは消えることもあります、入港する船は不便でした。明治6年、國に洋式灯台建設の補助金を申請しましたが、実現しませんでした。その後、明治9年に波止場の拡張工事を行うについて、遥明台の移転が問題となり洋式灯台を新築することになったのです。当時の

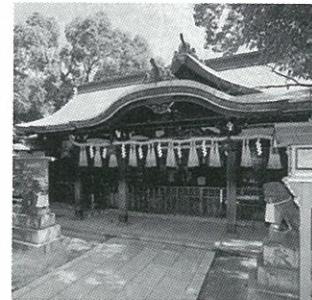


旧堺港灯台

お金で2,500円程度の建築費が必要でしたが、大半は市民の寄付により賄われたとのことです。その後、臨海工業地帯の造成に伴い、昭和43年（1967）にその役目を終えました。現在は「旧堺港灯台」として国の史跡に指定され、今もその姿を残しています。

#### 方違神社（ほうちがいじんじゃ）

堺の地名のおこりは、摂津、河内、和泉という三国の境にある集落のことです。同様に堺市には三国が丘という町名があります。その三国が丘に方違神社があります。方違（ほうちがい）とは、古くから凶方への転居や旅立ちは災難を招くとの考えがあり、転居や旅立ちに際して目的地の方角が凶方だとすれば、一旦、別の方角へ行って目的の地へは異なる方角から出かけるようにすれば、災難に遭わないとの考えから始まった迷信です。この神社は三つの国にいることから、和泉の国から河内へ行こうとする



方違神社拝殿

人が河内の方角を凶方だと考えれば、一旦、摂津の国に入り、そこから河内の国へ向かうことにより、目的地の方角を変えることができます。今ではこのような面倒なことをしなくとも、方違神社にお参りすれば凶方はなくなると考えられています。現在でも「ほうちがいさん」の名で親しまれ、転居などに際して、わざわざ遠方からお参りする人もあります。

（株式会社 南海精工所 潟瀧 一美）